

information

☑ パートナースHIP&キャンパスメンバーズ 学習院大学は博物館と連携しています 学生証をもって博物館にでかけよう！

学習院大学では、学内に博物館指定施設である霞会館記念学習院ミュージアムを設置するほか、科学技術や美術・歴史などに対する皆さんの関心を高めることを目的として、学外の博物館と下記の提携を結んでいます。各館の窓口で学生証を提示すると、常設展が無料で観覧でき、一部の特別展・企画展が割引になるなど、さまざまな特典があります。

連携や特典についての詳細は、学内担当部署学芸員課程のHP <https://www.gakushuin.ac.jp/univ/curator/index.html> や、各館HPの連携専用ページをご確認ください。

連携名称と対象となる博物館

- 東京国立博物館キャンパスメンバーズ：東京国立博物館
- 東京都歴史文化財団パートナーシップ：江戸東京博物館・現代美術館・写真美術館・庭園美術館・都美術館・江戸東京たてもの園
- 国立科学博物館大学パートナーシップ：国立科学博物館
- 国立美術館キャンパスメンバーズ：東京国立近代美術館本館・国立工芸館・国立映画アーカイブ・国立西洋美術館・国立新美術館

※ 入館に事前予約が必要な場合があります。観覧にあたっては、各館のHPを必ずご確認ください。



東京国立博物館 堀輪室
画像提供 東京国立博物館



東京都庭園美術館 本館 南面外観
画像提供 東京都庭園美術館



国立科学博物館 外観
画像提供 国立科学博物館



国立映画アーカイブ 外観
画像提供 国立映画アーカイブ

☑ 学芸員課程事務室よりお知らせ — 各種証明書の発行について —

学芸員資格に関して、以下の証明書を発行しています。

- 博物館学芸員資格取得証明書〈和文〉〈英文〉
- 博物館学芸員資格取得見込証明書〈和文〉〈英文〉
- 博物館に関する科目の単位修得証明書〈和文〉

・ 詳細は学習院大学HP「証明書の発行」をご確認ください。

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/issue/>



☑ 学芸員課程事務室の開室について

原則 月曜日～金曜日 9:30～17:30

(11時30分～12時30分は閉室)

土曜日 9:30～12:30

・ 開室日時は、原則として霞会館記念学習院ミュージアムと同じです。最新の開室情報は、霞会館記念学習院ミュージアム(学習院大学史料館)HP <https://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua/index.html> から開館カレンダーを御確認ください。

・ 霞会館記念学習院ミュージアムは令和7年(2025)3月にリニューアルオープン予定です。それまでの期間、対面での事務取り扱いをご希望の方は、事前にご予約下さい。

広報誌『学芸員』がリニューアルしました。

芸術を学び始めると、古代ギリシャ神殿の円柱や三角形の破風、四角い居住空間、ロシア・アヴァンギャルドやセザンヌらの円と三角と四角への分解と再構成、仙厓義梵の○△□など、さまざまな円・三角・四角に出会います。皆さんが学習院の学芸員課程を履修する中で、教員・スタッフから基礎的な多岐にわたる円・三角・四角を学び、新たな自分の形(学芸員)を創造していく姿をイメージし、タイトルロゴを作成しました。

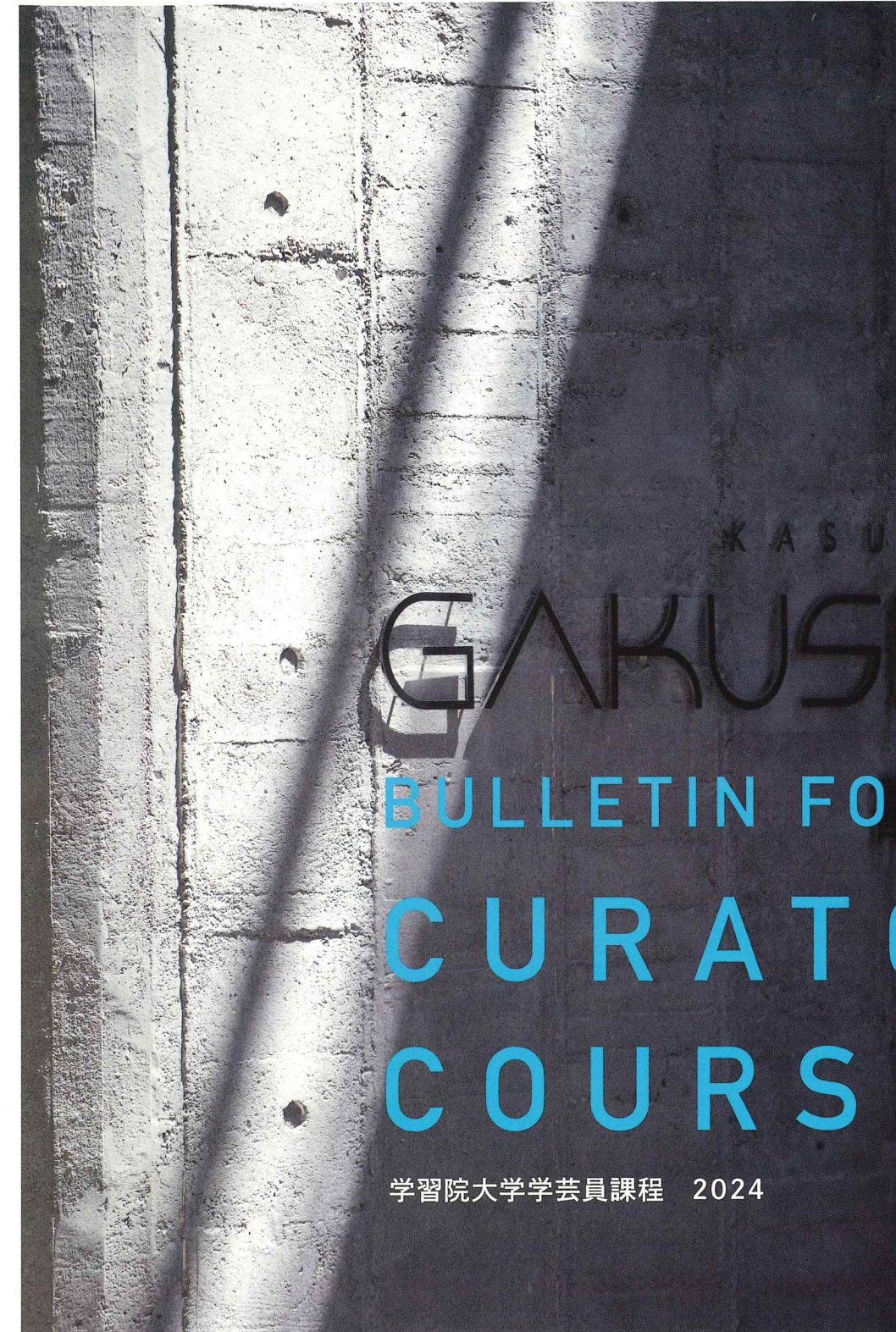
学芸員 BULLETIN FOR CURATOR'S COURSE No.28

発行日：2024年12月発行 発行者：学習院大学 学芸員課程委員会 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
霞会館記念学習院ミュージアム2階 学芸員課程事務室 TEL. 03(5992)1181 <https://www.gakushuin.ac.jp/univ/curator/>
デザイン・制作：株式会社D_CODE



目次

- 2 学芸員をめざす方へ | ミュージアムと文化財写真
- 3 学芸員の視点 | 「博物館」と学芸員資格
- 6 活躍する卒業生 | 学芸員として働く—毎日が学びの連続—
- 8 博物館実習体験記① | ちひろの想いと共に働く喜び | ちひろ美術館・東京
- 9 博物館実習体験記② | 現場でしか分からない「学芸員」の仕事 | 旧坂東家住宅見沼くらしっく館
- 10 新ミュージアムでは学芸員課程もリニューアルしました
- 12 実習記録あれこれ
- 13 学芸員資格取得案内 | 学習院大学で学芸員資格をとるには
- 16 information



学習院大学学芸員課程 2024



Since 1877
学習院は2027年で
創立150周年を迎えます

一昨年の令和4年(2022)4月に、「博物館法の一部を改正する法律」が成立し、博物館法が改正されました。昭和26年(1951)に博物館法が制定されてから、約70年ぶりの単独改正でした。70年の間に社会が大きく変化したことを受けて、社会教育施設としてのミュージアムの役割に加えて、文化・芸術だけの振興にとどまらず、観光やまちづくり、福祉、教育、産業など幅広い分野と連携して、総合的な文化政策を推進することも、ミュージアムの役割の一つとして定められることになりました。

それを受けてミュージアムは、他の博物館等と連携すること、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光やその他の活動を通して地域の活性化に取り組むよう義務付けられ、この目的を達成するために、新たに「博物館資料に係る電磁的記録を作成し、公開すること」という業務が付けくわえられました。「博物館資料の電磁的記録の公開」という文言は大変わかりにくいですが、「作品のデジタルデータ」の公開であれば、理解しやすいのではないのでしょうか。

たしかに博物館業務と写真とは切っても切り離せない関係にあります。皆さんが目にするのは、展示会のポスターやチラシ、図録に掲載された作品の写真ではないのでしょうか。魅力的に写された作品の写真に、実物を見てみたいと思ったことのある人も多いことでしょう。私たちの眼に入るのは、そうした華やかな表層部分なのですが、実は写真はミュージアムの業務を下支えする縁の下の力持ち的な役割を果たしています。

各ミュージアムに所蔵される作品は、それが特定できるように写真が撮影され、データベースに登録されて、簡単に参照できるように整えられています。作品の形状等を記録しておくということはもちろんのこと、ミュージアム間での作品の貸し借り、特別観覧にあたっては状態の悪い作品は写真で代替するなど、写真は博物館業務の根幹となるものです。また展示会にあたっては、展示会の記録となる図録、ポスター等の広報に写真が使われます。作品を貸し借りする際には、コンディションチェックのために何枚も写真を撮ります。また写真のデジタル化により、様々なかたちで作品の魅力を発信できるようになってきました。現在は、この最後の項目をより推進していくことが求められることとなりました。

このように写真はミュージアムの多岐にわたる業務のなかで、大変重要な役割を果たしています。ところが、作品の写真としてどのようなクオリティのものが望ましいのか等、文化財写真に関するコンセンサスは必ずしも共有されているわけではないようです。学芸員課程のカリキュラムでは、写真の撮影方法、写真の取り扱い方法、適切な写真に対する評価基準などに関する講義や実習科目を設定するようには義務づけられていないことも、理解が進まない一因になっているのかもしれませんが。本学でも写真に関する講座はありませんでしたが、去年度より「8K文化財デジタルアカデミー」「文化財写真に関するオンラインレクチャー」などを開催して写真に関する理解を深めてもらう機会を少しずつ増やすようにしています。学芸員課程を履修している皆さんで、興味のある方はぜひご参加ください。



図1 東京国立博物館とNHKの共同事業「8K文化財プロジェクト」で制作された文化財の3DCGを用いた授業「8K文化財デジタルアカデミー」を他大学と合同で開催しました。



図2 文学部哲学科美学美術史学専攻の調査実習の一コマ。撮影時のライティングの役割を学んでいます。

学芸員の 視点

「博物館」と学芸員資格

いけだ ひろし
池田 宏

霞会館記念学習院ミュージアム／学習院大学史料館客員研究員 元東京国立博物館研究員
令和6年度「博物館概論」「博物館展示論」担当非常勤講師

学芸員課程の博物館概論と博物館展示論を担当している池田宏です。

博物館概論では、博物館の業務や学芸員の仕事、博物館や美術館の歴史、博物館に関する規則、さまざまな展示施設などについてお話をし、博物館展示論では、博物館の常設展示や特別展、展示ケースをはじめ題箋や解説、掛軸や巻物、冊子や地図、陶磁器・漆器・着物・刀剣・甲冑などの美術工芸品の具体的な取扱いや展示について授業をおこなっています。

■「博物館」という語

概論の授業の準備で、幕末から明治初期の博物館に関係する事柄を調べていくうちに、「博物館」という語はいつ頃から使われたのだろうかという疑問が湧いてきました。

幕末の安政5年(1858)に結ばれた日米修好通商条約の批准のため、幕府は万延元年(1860)にアメリカへ遣米使節を派遣しました。使節は閏3月28日(太陽暦で5月18日)に、アメリカの首都ワシントンのホワイト・ハウスで、ジェイムズ・ブキャナン大統領と会見して国書を渡し、4月3日に日米修好通商条約の批准書の交換を行いました。

批准書交換の前日、4月2日(太陽暦の5月22日)の午前中に、使節一行は、パテント・オフィス(Patent Office)を見学に行っています。パテント・オフィスは特許局の展示施設で、特許に関した資料や蒸気機関の模型をはじめ、独立宣言や各国の条約書、駐日米国公使ハリスが幕府から賜った装束などが展示されていました。使節の記録には、鳥獣などの剥製が、^{はり}ガラス(ガラスケースの中)に納められていたと記されています。

この時の様子を通訳の沢村元度は、渡航日記である『亜行日記』に「当所博物館ニ到リ、其掛り官吏ニ面会諸物一見ス」と記し、「博物館」の右側に「パテントオヒス」とふりがなを付けています。これが「博物館」という語が使われた最初とされています。

パテント・オフィスは、使節の人々によって、百物館、器機

局、諸国物品館などそれぞれに記されていて、まだ博物館という語が定まっていなかったことがうかがわれます。

そのような中、沢村元度は、中国の地理書を通じて、英語やオランダ語のMuseumを「博物館」と称することを理解していたと考えられています。

遣米使節は、その後ニューヨークを訪れ、大西洋、アフリカの喜望峯を回り、バタビア(現在のインドネシアのジャカルタ)、香港を経由して、品川沖に帰着したのは9月28日でした。

遣米使節派遣の翌年の暮、文久元年(1861)12月22日には、修好通商条約を結んだフランス・イギリス・オランダ・プロシア・ロシア・ポルトガルに向けて遣欧使節が品川を出発し、ほぼ一年を経た同2年12月10日に帰国しました。

遣欧使節の記録を見ると、大英博物館などを「博物館」と記しています。

遣欧使節に通訳として加わった福沢諭吉は、帰国後に『西洋事情』を著して、「博物館」の項を設け、

博物館ハ世界中ノ物産、古物、珍物ヲ集メテ人ニ示シ、見聞ヲ広クスル為メ設クルモノナリ、

と説明を加えています。

この頃から、博物館という語が用いられるようになったようです。

■ワシントン

令和元年(2019)、5月から8月にワシントンのナショナル



図1 日本美術に見る動物の姿展 会場風景 ナショナル・ギャラリー 2019年

ル・ギャラリー（国立美術館）で特別展「日本美術に見る動物の姿」が開催されました。埴輪から現代アートまで動物をテーマにした日本の作品の展覧会で、276点が出品されました（図1）。

私は、甲冑や刀剣の^{つば}鐔などの展示のため、メンバーに加えていただきました。

ナショナル・ギャラリーには、昭和63年（1988）の「大名美術展」の展示作業や随伴のために2か月半ほど出張したことがありました。当時、一緒に仕事をしたナショナル・ギャラリーのメンバーたちと再会でき、また一緒に仕事ができことは、懐かしく思いがけない喜びでした。

動物展の展示作業の合間に、19世紀のパテント・オフィスが現在も残っているナショナル・ギャラリーのスタッ

フに尋ねたところ、現在のポートレート・ギャラリー（国立肖像画美術館）であると教えてくれました（図2）。

週末の展示作業の休みの日にポートレート・ギャラリーを訪れてみました。現在は、歴代大統領の肖像画やスポーツ選手、芸術家の肖像画のほか、彫刻や工芸品などが展示されています。

ポートレート・ギャラリーは、1877年の火災で損傷しましたが、3階は19世紀の様式に復元されています（図3）。

1860年の幕府の使節は、このような室内を見たことと思います。

当時の記録や新聞の挿絵、撮影された記念の写真などを見ると、使節の人たちが、アメリカに渡り初めて見聞することばかりの中で、堂々と立派に振舞っていた様子うかが



図2 ポートレート・ギャラリー（旧パテント・オフィス）外観

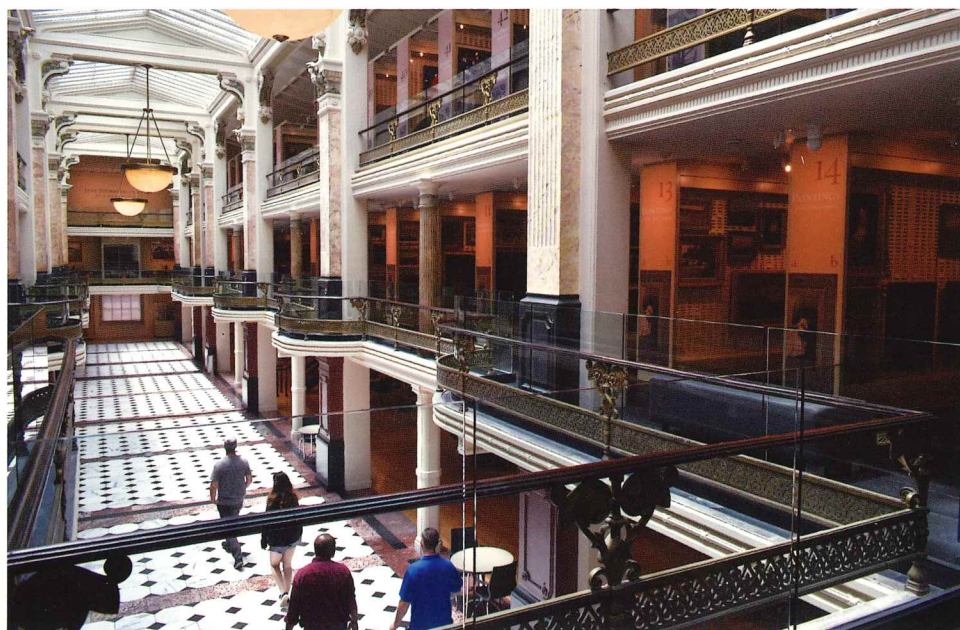


図3 ポートレート・ギャラリーの室内



図4 ヴィーラーズ・ホテル 1860年当時は5階建て、のちに建直されて12階建てになっている

がえます。同じ建物の中に立てた時、感慨深いものがありました。

幕府の使節が逗留したヴィーラーズ・ホテル（図4）も、ホワイト・ハウス近くの159年前と変わらない場所にあり、歴史的なホテルとして健在でした。

■学芸員資格

「博物館」という語が幕末の遣米使節から使われ、当時、使節が見学した建物について紹介してきました。

ここからは、授業をしていて思ったことや感じたことを少し述べておきます。

学芸員の資格を取っても、周知のとおり募集の数は多くありません。しかし、学芸員資格が役に立つ職種もあります。

例えば、文化財に関する仕事や博物館とつながりのある仕事です。

具体的には、公務員になって文化財関係の担当になると、学芸員課程で学んだ作品の取扱いや特徴を知っていることはすぐに役に立つでしょう。

また、教員や教育関係でも、博物館や美術館と連携して見学や出前授業などがおこなわれることもあり、勤務先によっては、教員が博物館に移って教育普及にかかわる活動を任されているところもあります。

企業でも、企業の歴史に関する部署や、企業の博物館などに配属されるケースがあります。

博物館と関連する仕事としては、図録・美術書・学術書など出版関係の仕事。ただ、出版関係は、紙媒体の書籍が少なくなり、様相が変化してきました。

展覧会をはじめイベントなどの会場の設営をしたり、ディスプレイのデザインなどを担当する職種もあります。

博物館の空調や照明の調整など設備関係の業務は、目立

ちませんが博物館にとって大切な仕事です。

文化財の修理や修復は、作品に直接触れる仕事で、技術と忍耐力が必要ですが、将来に残るやりがいのある職業です。保存や修復に関する科学的な調査や研究など保存科学の分野の仕事も携わる人が多くなってきました。

作品を傷めないように梱包をして、安全に輸送する美術梱包も、博物館にとってはなくてはならない大切な職種です。

以上、博物館や学芸員とつながりのある職業をいくつか紹介してみました。

おしまいに、博物館の展示について。

博物館や美術館は、作品を目の当たりに見ることができるのが醍醐味です。どんなに精度の良い画像よりも実物を見ることは、得るものが大きいと思います。

作品を見ることは、学ぶことは勿論、見る人の心を豊かにします。

作品の印象も人によって異なりますが、自分が見た時に感じた第一印象は大切にしてください。

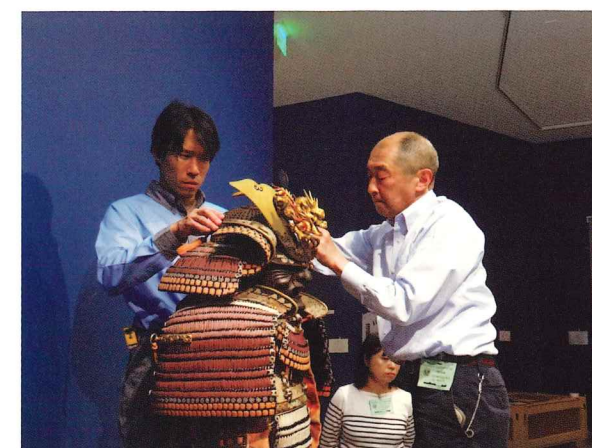


図5 動物の姿展で展示作業中の筆者（右）

活躍する
卒業生

学芸員として働く —毎日が学びの連続—

かみ や らん
神谷 蘭

港区立郷土歴史館 学芸員

令和2年度 学芸員資格取得

令和4年度 学習院大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士後期課程単位取得退学

◆自己紹介

私は平成24年(2012)に学習院大学に入学しました。浮世絵に関心があり、美術史の門を叩きましたが、その世界の奥深さと広さに圧倒された4年間でした。大学院での学びを終えるまで、学部を含めると10年近くの年月を学習院大学で過ごしたことになります。学生時代に、授業はもちろんのこと、調査や研究会などたくさんの学習の機会をいただきました。もっとひとつひとつに対して真剣に取り組めたのではないかと悔やむことも多いですが、全て自身の大きな糧となっています。また多くの素敵な先生、仲間と出会えたことが何よりの財産です。

◆港区立郷土歴史館について

令和2年(2020)より、港区立郷土歴史館の学芸員として勤務しています。郷土歴史館は、昭和57年(1982)に開館し三田の地で30年あまりの活動を行ってきた港郷土資料館を前身としています。平成30年(2018)に白金台の地に移転し、郷土歴史館と改称して開館しました。郷土歴史館の建物は、国の研究機関である「公衆衛生院」として、東京大学教授の内田祥三が設計し、昭和13年(1938)に建設されたものです。この建物を、郷土歴史館をはじめとした複合施設として改修するにあたり、区の指定文化財とし

て保存することを前提とした設計・施行が行われました。展示室や収蔵庫の機能を確保しつつ、外観だけでなく、中央ホールや旧講堂、院長室なども当時の姿を残しています。

常設展示は「海とひとのダイナミズム」「都市と文化のひろがり」「ひとの移動とくらし」の3つの大テーマを軸に構成されています。ミンククジラの骨格標本や縄文・弥生土器、すこし昔のくらしの道具などを実際にさわって体験できる「コミュニケーションルーム」は、当館の特色のひとつです。港郷土資料館時代から蓄積された知と資料を基礎として、これら常設展示と年間1本の特別展、館蔵品を中心とした3本の企画展を行い、港区の自然・文化・歴史を発信しています。

◆学芸員の仕事・心に残ったこと

令和3年度にはじめて企画展を担当しました。当時は緊急事態宣言発令中でしたが、そのような中でも名所を巡る〈散歩〉を楽しめるよう、「港区浮世絵さんぽ」と題しました。港区域が描かれた浮世絵は数多く、海・山・坂などバリエーション豊富です。港区というとビジネス街や観光地など煌びやかなイメージがあるかもしれませんが、江戸時代まで遡るとまた違った魅力にあふれた場所でした。その魅力を伝えるため、どのように展示を行えば効果的か、過去の展示や先輩からのアドバイスを元に熟考しました。最終的に



港区立郷土歴史館 外観



企画展展示風景



特別展チラシ

は、順番に作品を見ていくと区内を一周できるという構成で、現在の景色と比較できるよう写真パネルも充実させ、展示室内で散歩と鑑賞の両立を実現することができました。

令和5年度には、館で所蔵する図案帖『國華』をメインとした特別展「ある図案家の仕事—宮中の染織デザイン—」を担当しました。港区に居住していた中山亘一という図案家が自身の仕事をまとめた集大成である『國華』には、その生涯で深く携わった、皇室にかかわる図案が数多く収められています。中山が富山県立工芸学校(現在の富山県立高岡工芸高等学校)図案絵画科に在学した時期は、日本各地に工芸学校や図案科が設置された、いわゆる「図案教育黎明期」と重なること、上京し高島屋呉服店(現在の株式会社高島屋)から委嘱を受け、貞明皇后・香淳皇后にかかわる染織品の図案を作っていたということがわかってきました。無名の中山に関する資料は乏しく調査は難航しましたが、同世代の卒業生らの卒業制作を見つかることができ、当時の図案学習の成果を知ることが叶いました。さらに中山の母校の同窓会誌にて、上京後すぐに中山が高島屋呉服店に在籍していたことがわかる記述を発見し、仕事の委嘱を受けることができた理由が明らかになりました。最も肝心の、彼の図案は本当に採用され、形になっていたかの実態はなかなか掴めずにいましたが、最後に行った調査で中山の図案と一致する裂を2種類見つけることができた時の感動は忘れられません。

本来は調査を経て十分に展示が可能になった状態の資料を中心に展示を構成するべきですが、『國華』を展示するということが先行し、見切り発車で進行してしまったことは反省すべき点です。そのうえ図録執筆や借用など初めてのことばかりで、自分のキャパシティを大きく超えてしまいましたが、ともに『國華』に向き合い、沢山のことを教えてくださった副担当の先輩や、助言をしてくださった先輩方、先生方のおかげでやり切ることができました。早く調査をさせていただいた各所蔵機関の方々にも感謝の思いでいっぱいです。そのほかにも、図録のデザイン・印刷

や資料の運搬、展示造作など、非常に多くの方が展示のために動いてくださり、展示の担当とは大きな責任を伴うものだったことを学びました。一方で大変だったことを全て凌駕するほどのやりがいも感じる事ができ、かけがえない経験となりました。

郷土歴史館の学芸員は、資料の収集・保存・展示を行うとともに、教育委員会の中の文化財係職員として、文化財行政の業務も行っています。大きな業務として、区の文化財の指定があります。専門の先生方に助言をいただきながら調査を行い、諮問・答申を経て指定の決定がなされます。たとえば令和4年度には、赤坂のお寺から見つかった屏風が、狩野派の絵師・狩野興以によるものであることがわかりました。区として貴重な資料であるだけでなく、今後の狩野派研究の進展も期待できることから、区指定文化財として指定に至りました。現在は修復を終え、展示の機会を待つのみです。地域の文化財を守り後世に伝えていくため、行政でどのようなことを行っているのか、現場に立ち、教えていただいて初めてわかることばかりです。この視点は机上の学習では得られませんでした。博物館に関する学芸業務と文化財行政の業務を両方経験できる環境のありがたさを感じています。

◆学芸員を目指す学生みなさんへ

学芸員課程の授業は沢山コマ数があるため、通常の授業との両立が大変だと思います。しかし学芸員として働くいま、授業で学んだことはどれも本当に大切だと実感しています。ぜひ授業も実習も全て吸収する気持ちで取り組んでみてください。最終的に学芸員を目指すなくても、授業を通して、資料の目線・展示の作り手の目線で見方を養うことができますし、なにより博物館・美術館がもっと身近な存在になると思います。忙しい学生時代ですが、たくさん展示を見に行き、素敵な鑑賞体験を積み重ねていってください。身近な地域の博物館にも足を運んでみてくださいね!

新ミュージアムでは学芸員課程も リニューアルしました

学習院大学史料館は、令和7年（2025）春、霞会館記念学習院ミュージアムとして生まれ変わります。新ミュージアムの建物は、モダニズム建築の旗手前川國男（1905－86）により設計されたかつての大学図書館を、機能的な博物館施設としてリノベーションしたものです。

1階には特別展を開催する「特別展示室」と、学習院の歴史を紹介する「常設展示室」を設置。2階は学習院大学の教育施設として、博物館学芸員を養成する学芸員課程の実習室、展示室を備え、展示公開や収集保管のほか、大学博物館として、将来の博物館学芸員を養成する教育機能も充実しています。ここでは、学芸員課程の魅力をご案内します。

前川國男（1905-86）

新潟県生まれ。1928年に東京帝国大学工学部建築学科を卒業すると同時に渡仏し、20世紀を代表する建築家ル・コルビュジエの元で学ぶ。帰国後は、アントニン・レーモンドの事務所を経て独立。その後日本を代表する建築物を数多く手がけ、日本の近代建築史に大きな足跡を残した。学習院大学では、1960年から3年間におよぶキャンパス計画を手がけた。同大学の代表的な建築としては、ピラミッド型大教室（1960年竣工、現存せず）や大学図書館（1963年竣工、現・霞会館記念学習院ミュージアム）がある。



前川國男
廣田治雄撮影 前川建築設計事務所提供

3つのアピール・ポイント

1. 専用の展示室

学生の展示設営の練習と実践の場として新たに企画展示室が設置されました。壁設置の展示ケースやピクチャーレールでは、掛軸や額、小型の屏風などさまざまな形態の作品展示ができます。展示ケースの内部、外部には展示用の照明設備があり、本格的な展示を実践することができます。

2. 多用途な畳の実習室

広々とした和室の実習室で、陶磁器や掛軸、装束などを扱うことができます。

3. 機能性あふれる実習室

スライドプロジェクターや手洗場などを備えた機能的で広々とした実習室は、さまざまな史資料の取り扱いや講義を行うことができます。教材用の史資料を保管する専用の収蔵庫と隣接しているため、史料や実習用具の出し入れを含めた一連の取り扱いを学べます。

新ミュージアムの学芸員課程エリア（フロアマップ⑥～⑨）では、魅力あふれる実習を体験していただけます。さらに、ミュージアム全体も、学芸員課程の教材としての機能を兼ね備えています。



図1 企画展示室で展示設営をする学生



図2 実習室2での装束の着脱の講義



図3 実習室1での古美術品取り扱い講習

※図2・図3は世界文化社刊「学習院コレクション」より（撮影/鈴木一彦）

フロアマップ

- 禁煙
- ペット禁止
- 館内原則飲食禁止
- 通話禁止

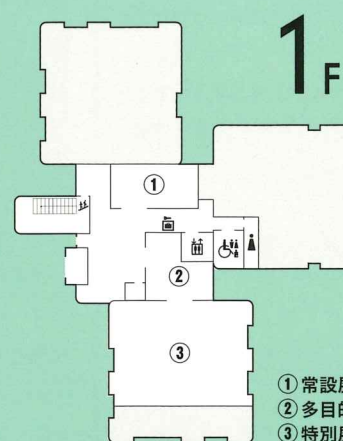


図4 学習院の教育の歴史を紹介する常設展示室



図5 国宝や重要文化財も展示できるスペックの特別展示室

ちひろの想いと共に働く喜び

令和5年度 学習院大学人文科学研究科
美術史学専攻 博士前期課程2年

ふかたに りつ か
深谷 律香

館園実習先

ちひろ美術館・東京

はじめに

私は、令和5年(2023)8月8日、9日、12日、22~25日の7日間、東京都練馬区下石神井にあるちひろ美術館・東京の実習に参加いたしました。ちひろ美術館・東京が、画家いわさきちひろ作品に見られる小さな子どもたちへの温かいまなざしや平和への想いを世に伝え続けるために、どのような工夫を込めているのか、今までには来館者として感じるのみでしたが、実際に現場の学芸員の方々から生の声を伺うことが出来ました。本稿では、2日間にわたって行った水彩技法体験ワークショップを中心に紹介したいと思います。

館の概要

ちひろ美術館・東京は画家いわさきちひろの自宅兼アトリエ跡に建つ、世界で最初の絵本美術館として、ちひろや世界の絵本画家の作品を紹介しています。絵本カフェ、ミュージアムショップ、こどものへや、図書室のほか、ちひろの愛した草花が咲く庭、画机や本棚が忠実に復元されたアトリエなどを擁する人間ちひろに出逢える空間とされています。



図1 ちひろ美術館・東京 外観

実習内容

- 1日目 ● オリエンテーション、接遇研修、教育普及、アトリエトーク、受付・ショップ業務
- 2日目 ● アーカイブとデータベース、学芸研修(作品収蔵庫での保存実務)、法務、展覧会運営・展示準備、海外業務
- 3日目 ● 図書業務、絵本のじかん、総務全般、来館者調査、展示レポート作成、ワークショップ打ち合わせ
- 4日目 ● 水彩技法体験ワークショップ
- 5日目 ● 水彩技法体験ワークショップ
- 6日目 ● 展覧会企画案作成、支援会員制度・ファンドレイジング、コレクション、教育普及プログラム企画(グループワーク)
- 7日目 ● 団体来館、広報編集業務、SNSと美術館、実習のふりかえりとまとめ

ちひろ美術館の水彩技法体験ワークショップは、ちひろの描く水彩のにじみ技法を参加者が実際に体験し、作ったにじみの中から好きなところを選んで缶バッジにするという内容でした。展示室で鑑賞したちひろの水彩画の雰囲気をも自分も表現出来たという経験が、良い思い出として参加者の心に残れば嬉しいという気持ちでお手伝いしました。その中で、ちひろが描いた水彩画のパネルを参加者に見せながら、ちひろ独特のにじみ技法を説明した経験も大変貴重でした。絵の説明をするだけでなく、「場所はどんな場所だと思いますか」「何色で描かれていますか」などと絵について質問を投

げかけると、参加者の方々は嬉しそうに自分の経験を交えて想像したことを話して下さいました。近い距離で自由な発想を話しながら絵を見る時間からは、温かい交流が生まれることを実感しました。

ちひろ美術館は、絵本は誰もがことばや文化、国や民族の違いを超えて楽しめる文化財であるという考えをもち、人々が初めて訪れる美術館「ファーストミュージアム」として様々な教育普及や館内の配慮を行っています。今回とりわけ印象に残ったことは、展示の工夫です。親しみやすい絵本の原画を展示することを基本に、鑑賞者が疲れないう、館内各所にくつろげるスペースや椅子を設置するなど、美術館を敷居の高いものと感じてしまっている人でもゆったり鑑賞出来る場所としての空間作りを心がけているそうです。赤ちゃんから高齢者まで、人々に優しく寄り添うちひろ美術館ならではの工夫が各所に込められていることを知りました。



図2 画家・いわさきちひろ アトリエにて(1963年)

げかけると、参加者の方々は嬉しそうに自分の経験を交えて想像したことを話して下さいました。近い距離で自由な発想を話しながら絵を見る時間からは、温かい交流が生まれることを実感しました。

ちひろ美術館は、絵本は誰もがことばや文化、国や民族の違いを超えて楽しめる文化財であるという考えをもち、人々が初めて訪れる美術館「ファーストミュージアム」として様々な教育普及や館内の配慮を行っています。今回とりわけ印象に残ったことは、展示の工夫です。親しみやすい絵本の原画を展示することを基本に、鑑賞者が疲れないう、館内各所にくつろげるスペースや椅子を設置するなど、美術館を敷居の高いものと感じてしまっている人でもゆったり鑑賞出来る場所としての空間作りを心がけているそうです。赤ちゃんから高齢者まで、人々に優しく寄り添うちひろ美術館ならではの工夫が各所に込められていることを知りました。

おわりに

私は、将来美術館で勤務出来る様になるとしたら、ちひろ美術館・東京で学んだ「人々が訪れやすい美術館作り」をいつも心に留めながら活動していきたいと思えます。憧れていたちひろ美術館で今回多くの勉強をさせて頂いたことは、私にとってかけがえのない糧となりました。

現場でしか分からない「学芸員」の仕事

令和5年度 学習院大学文学部史学科4年

かない たけひろ
金井 健浩

館園実習先

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

はじめに

私は、令和5年(2023)7月20日~8月2日(うち10日間)、旧坂東家住宅見沼くらしっく館で博物館実習に参加させていただきました。この館園を希望したのは、子どもの頃からよく訪れていた馴染み深い場所であり、自身の研究にも関係していたからです。本稿では、具体的な内容や実習で学んだことのほかに、注意点やアドバイスなどもお伝えします。

館の概要

旧坂東家住宅見沼くらしっく館は、埼玉県さいたま市見沼区にある市立博物館です。坂東家は、江戸時代に周辺の土地の名主を代々務めており、その旧宅を復原した建物が現在見学棟になっています。館内には床の間や縁側、囲炉裏などがあり、自由に見学することが可能です。昔の家の造りをそのまま生かし、季節展示や講座、体験学習といった催しが行われています。

実習内容

- 1日目 ● ガイダンス、資料の取り扱い
- 2日目 ● 業務説明、館内見学
- 3日目 ● 竹細工製作
- 4日目 ● 盆棚飾りつけ、竹細工製作
- 5日目 ● 竹細工製作、打ち合わせ見学
- 6日目 ● 夏休み小学生講座の運営補助
- 7日目 ● 夏休み小学生講座の運営補助
- 8日目 ● 夏休み小学生講座の運営補助
- 9日目 ● 課題発表の準備、資料作成
- 10日目 ● 課題発表

実習では、「館の魅力や地域の良さを伝える新しい企画を立案し、最終日に発表

する」という課題が出されていました。期間中はそのことを念頭に置き、資料の作成やプレゼンの準備を進めていきました。予算などを勘案しながら実現可能な計画を立てるのに難渋しましたが、同時に、一から事業を確立していくやりがいを感じることもできました。

上記以外にも、実習では毎日の開館・閉館業務(雨戸の開け閉め)や囲炉裏の火付け作業を行いました。どちらも慣れるまでには時間がかかりましたが、ここでしかできない貴重な経験となりました。

おそらく見沼くらしっく館は、皆さんが普段行かれるような展示中心の博物館とは、性質が大きく異なると思います。というのも、ここは“生きている民家”をテーマに、体験を通して歴史や文化を伝えていく場所だからです。6日目から3日間、運営のお手伝いをした夏休み小学生講座では、昔遊びに夢中になっている子どもたちや昔日に思いを馳せる地域の方が多く見られました。その光景からは、人と人、過去と未来をつなぐ結節点として大切にすべきことが理解できたような気がしました。「訪れる人に印象に残る体験をしてもらうため、細かい部分まで想像して考える」という学芸員の方の言葉はまさに、この博物



図2 館内の様子

館が役割を果たしていく上での要諦のように感じられ、心に残っています。

実際の館園で、来館者と接することではじめて見えてくる学芸員の姿が、きっとあることでしょう。

おわりに

最後に、実習における注意点と簡単なアドバイスをまとめておきます。

- ・ 時間厳守、忘れ物に注意(注意しながらも、私は初日に忘れ物をしてしまいました…)
- ・ 資料の取り扱いは、毎回の授業で慣れておく(手順をイラストなどで書き留めておく、後で見返すと効果的です)
- ・ 実習中はメモを持ち歩く(毎日、実習記録に書く量は多いので、気づいたことはその場でメモしておくことをお勧めします)

実習では、学芸員の方だけでなく、同じ目標を持った他大学の学生とも交流を深めることができ、良い思い出になります。諸事多忙とは思いますが、ぜひ楽しんでください。



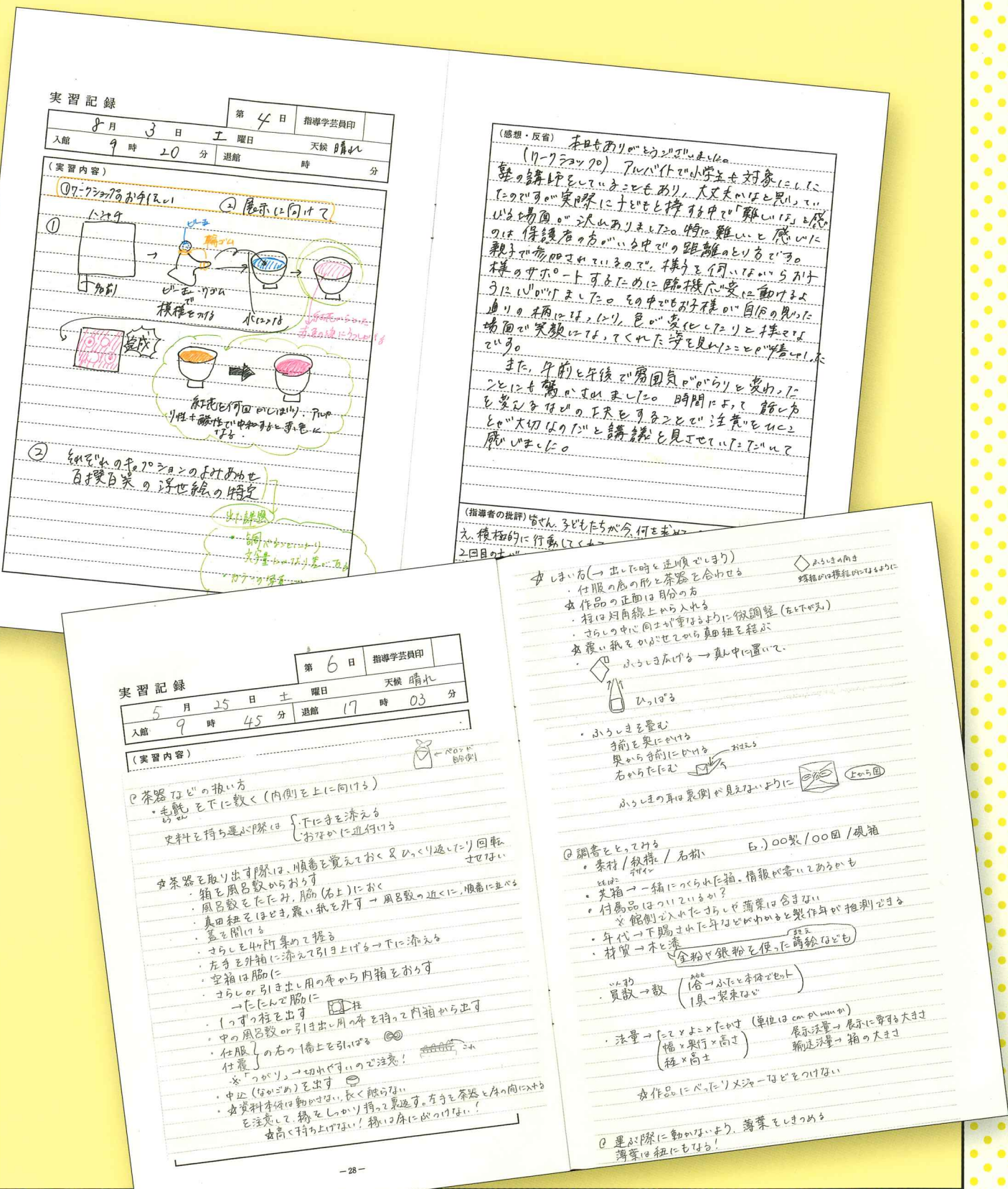
図1 旧坂東家住宅見沼くらしっく館 外観

実習記録あれこれ

資格取得の総仕上げとなる「博物館実習」。なかでも館園実習は、博物館の現場で現役の学芸員の方に指導を受けながら、学芸員としてのさまざまな実技や知識を教わるチャンスです。実習に参加した学生の記録から、その様子を見てみましょう。

上: 令和6年度 学習院大学文学部哲学科4年 永柄里彩の実習記録

下: 令和6年度 学習院大学経済部経営学科4年 木原彩弥子の実習記録



学習院大学で 学芸員資格をとるには

学芸員資格
取得のご案内



学芸員課程について

将来、博物館で働くことをめざす学生は、学士の称号を得て、必要な授業の単位を修得することで、博物館の専門職である“学芸員”の資格を取得することができます。学習院大学で、その運営を担当するのは学芸員課程委員会、窓口を担当するのは学内の博物館相当施設である学習院ミュージアム内に設置された学芸員課程事務室です。

1981年(昭和56)に学芸員資格取得がスタートしてから40年近くを経て、資格をとった学生数は、3,800人を越えました。もちろんそのなかには、博物館の現場へ旅立っていった卒業生たちが数多くいます。各館で活躍中の学芸員を中心とする顔ぶれ豊かな講師陣による授業。現場の大学博物館として年間数十名の実習生を受け入れ、さらに日々現役の学芸員たちが学生からの相談に応じる学習院ミュージアムのサポート。

このような学内協力体制と、なにより館園実習を受け入れてくださる全国の博物館・美術館との関係を大切にしつつ、今後もさらに充実した授業運営をめざします。

1 学芸員資格を取得するためには

① 学士の称号を得ること

② 「博物館に関する科目」の必要な単位をとること

・必修科目19単位すべて

・選択科目8単位以上

(文化史、美術史など9つの系列のうち、最低2系列に
わたり8単位以上、各系列4単位以上)が必要です。
※詳しくは、最新のシラバスや手引を確認してください。

最短で2年で資格を取得することができますが、卒業に必要な単位とは別なので、4年間かけて計画的に単位をとることをおすすめします。必要な単位をとると、学部卒業と同時に資格が取得できます。(大学院生・科目等履修生の方は、単位が揃った時点で資格が取得できます)

また、科目をとり始める年には、必ず4月上旬に開催される「博物館に関する科目履修ガイダンス」に出席して、所定の手続きをしないと履修が開始できません。ガイダンスや単位修得にかかわる事務室からのお知らせは、原則大学ポータルサイト「G-port」上に掲示されます。見逃さないように！

博物館に関する科目および履修年次
(参考: 令和6年度)

博物館法施行規則 による科目	大学の対応授業科目	単位	履修年次	修得単位数
生涯学習概論	★ 生涯学習概論	2	1~4年次	19単位すべて
博物館概論	★ 博物館概論	2	2~3年次	
博物館経営論	★ 博物館経営論	2	2~4年次	
博物館資料論	★ 博物館資料論	2	2~4年次	
博物館資料保存論	★ 博物館資料保存論	2	2~3年次	
博物館展示論	★ 博物館展示論	2	2~3年次	
博物館情報・メディア論	★ 博物館情報・メディア論	2	2~4年次	
博物館教育論	★ 博物館教育論	2	2~3年次	
博物館実習	★ 博物館実習	3	4年次	
文化史	★ 文化史特殊講義 ★ 資・史料整理法	4	2~4年次	最低2系列に わたり8単位以上 ※各系列4単位以上
美術史	★ 美術史講義	4	2~4年次	
考古学	★ 考古学	4	2~4年次	
民俗学	★ 民俗学特殊講義	4	2~4年次	
自然科学史	★ 自然科学史	4	2~4年次	最低2系列に わたり8単位以上 ※各系列4単位以上
物理	力学基礎1	2	1年次	
	電磁気学1	2	1年次	
化学	無機化学I	2	1年次	
	無機化学II	2	1年次	
	有機化学概論I	2	1年次	
	有機化学概論II	2	1年次	
生物学	生化学1	2	1年次	
	生化学2	2	1年次	
	動物科学	2	1年次	
	植物科学	2	1年次	
地学	地学概論I	2	2~4年次	
	地学概論II	2	2~4年次	

★は博物館に関する特設科目

2 学芸員資格取得までの手続きの流れ

2年生で履修登録をし、その後3年生終了時までに、最低でも「博物館概論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の5科目の単位を修得し、指定のガイダンスへの出席と所定の手続きを済ませると、次年度4年生で「博物館実習」を履修することが出来ます。

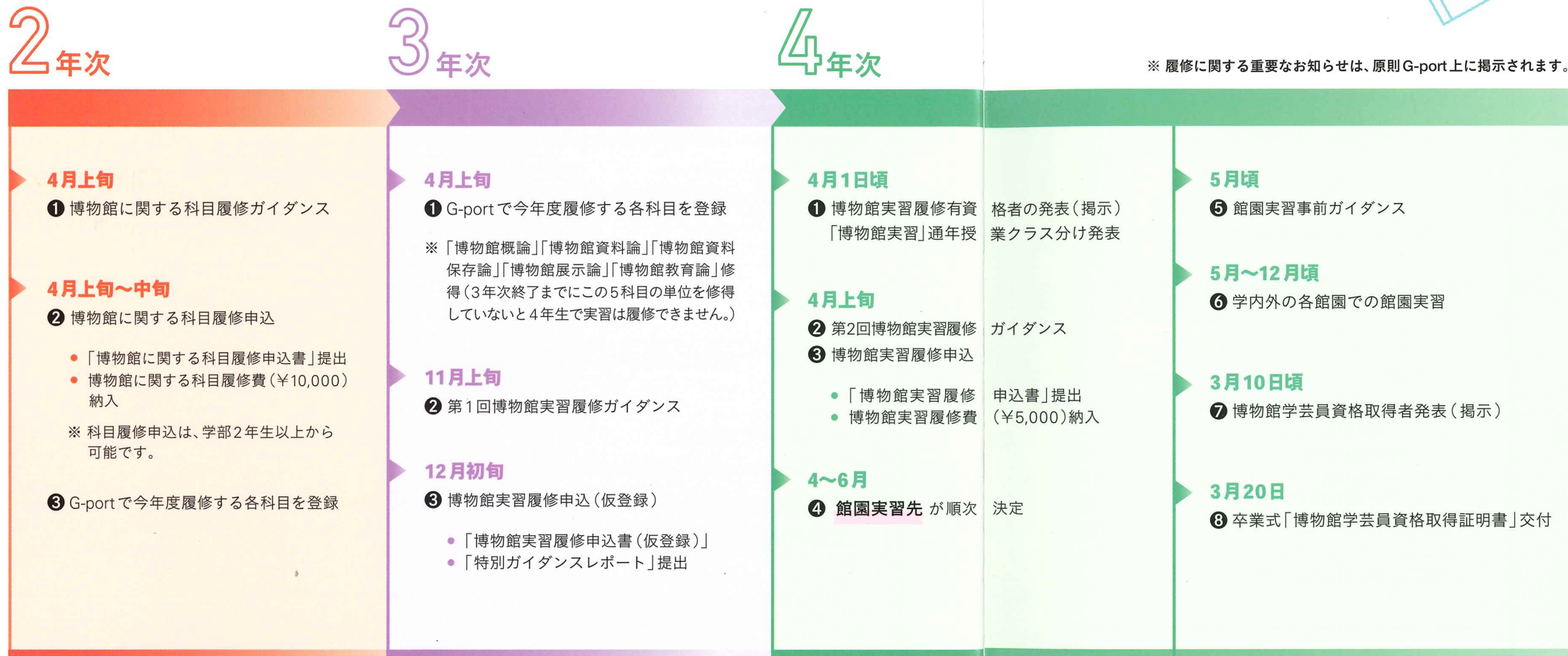
この科目は「学内実習」(通年週1回の授業)と、「館園実習」がセットになった科目です。通年週1回の「学内実習」のクラスは現在、美術系、歴史系の2つに分かれ、15名以下の小人数クラス制となります。ちなみに、令和6年度は7クラス開設されました。クラス分けや実習先は学芸員課程委員会が決定します。

「館園実習」は、学習院大学史料館または学外の博物館・美術館・文学館などの現場で、1週間程度行われます。

この「博物館実習」を履修し資格を取得するには、以下の流れに沿って必要な手続きを踏みましょう。



※ 履修に関する重要なお知らせは、原則G-port上に掲示されます。



館園実習にあたって

皆さんはこの広報誌や、先輩の話などを参考にし、学習院大学史料館で実習したいのか、それとも学外の館園で実習したいのか、その場合どのような館園で実習したいのか、などをよく考えておく必要があります。ただし、基本的には前年度博物館実習を受け入れてくださった館園以外で実習できる可能性は少ないですし、たとえば美術館では美術史専攻以外の学生はほとんど実習できないという現状もあります。また、実習を受け入れてくださる館園には限り

ありますので、すべての方の希望を叶えることは困難で、希望通りにならない場合が多々あります。その点はどうかご理解ください。

なお、帰省先などで縁故等があり、館園実習先を自分で探して依頼しようとする人は、心当たりの館と交渉を始める前に、必ず学芸員課程事務室に相談に来てください。理想と現実を踏まえて、「仮登録」をし、レポートを提出してください。そのレポートに基づき、委員の先生方が皆さんの実習クラス、実習館園を決定します。

令和6年度 博物館実習依頼館園

朝霞市博物館	江東区深川江戸資料館	進化生物学研究所
出光美術館	国立科学博物館	千葉市美術館
井の頭自然文化園	国立映画アーカイブ	東京都立博物館
上野の森美術館	古代オリエント博物館	東京都現代美術館
永青文庫	埼玉県立近代美術館	東京都写真美術館
NHK放送博物館	埼玉県立川口博物館	東京都埋蔵文化財センター
大原美術館	埼玉県立歴史と民俗の博物館	戸田市立郷土博物館
霞会館記念学習院ミュージアム	佐賀県九州陶磁文化館	栃木県立美術館
神奈川県立近代美術館	佐野美術館	とみおかアーカイブ・ミュージアム
神奈川県立生命の星・地球博物館	渋谷区立松濤美術館	紅ミュージアム
鎌倉国宝館	市立市川考古博物館	前田育徳会尊経閣文庫
川崎市立博物館	市立市川歴史博物館	山梨県立美術館
		横浜ユーラシア文化館

卒業生の主な就職先

国立	芳賀町生涯学習課
お札と切手の博物館	東村山市教育委員会
宮内庁書陵部	彦根城博物館
九州国立博物館	平塚市美術館
京都国立博物館	広島市現代美術館
皇居三の丸尚蔵館	深谷市教育委員会
(旧宮内庁三の丸尚蔵館)	福島県伊達市教育委員会
国文学研究資料館	福井県立歴史博物館
国立新美術館	(旧福井県立博物館)
国立西洋美術館	福井県立美術館
国立歴史民俗博物館	府中市郷土の森博物館
しょうけい館	筆の里工房
東京国立近代美術館	三鷹市美術ギャラリー
東京国立博物館	山口県立美術館
東京大学史料編纂所	山口県立萩美術館・浦上記念館
東京文化財研究所	大和市教育委員会
文化庁 など	山梨県立美術館
公立	山梨県立文学館
愛知県芸術文化センター	横須賀美術館
愛知県陶磁美術館	横浜美術館
愛知県総務部文化振興局振興課	横浜市歴史博物館
秋田県立博物館	和歌山市立博物館 など
安野光雅美術館	私立
板橋区立美術館	アーティゾン美術館
茨城県近代美術館	(旧プリチストン美術館)
井原市立平櫛田中美術館	出光美術館
今治市村上海賊ミュージアム	上野の森美術館
(旧村上水軍博物館)	永青文庫
入間市博物館	MOA美術館
いわき市勿来関文学歴史館	岡田美術館
江戸川区教育委員会	太田記念美術館
江戸川区郷土資料室	霞会館記念学習院ミュージアム/
O美術館	学習院大学史料館
大磯町郷土資料館	鎌倉考古学研究所
大分県立歴史博物館	鎌倉市芸術文化振興財団
大阪府立弥生文化博物館	軽井沢ニューアートミュージアム
大阪市東洋陶磁美術館	軽井沢千住博美術館
大阪市立美術館	河鍋曉斎記念美術館
神奈川県立神奈川近代文学館	切手の博物館
神奈川県立近代美術館	ギャラリー・タイセイ
神奈川県立歴史博物館	サントリー美術館
金沢21世紀美術館	サンリツ服飾美術館
鹿沼市立川上澄生美術館	沢沢史料館
鎌倉文学館	相国寺承天閣美術館
川崎市立美術館	城西大学水田美術館
川崎市市民ミュージアム	女子美術大学美術館
キッズプラザ大阪	昇仙峡ロープウェイ七宝美術館*
熊谷市役所埋蔵文化財担当	静嘉堂文庫美術館
群馬県立歴史博物館	泉屋博古館東京
江東区芭蕉記念館	浅草寺
神戸ゆかりの美術館	センチュリーミュージアム*
埼玉県立近代美術館	そごう美術館
埼玉県立文書館	SOMPO美術館
佐賀県立名護屋城博物館	竹久夢二伊香保記念館
静岡県立美術館	通信総合博物館*
品川区立品川歴史館	東京藝術大学大学美術館
島根県立美術館	徳川記念財団
白根記念渋谷区郷土博物館・文学館	徳川美術館
新宿区教育委員会	徳川ミュージアム(旧彰考館)
杉並区立郷土博物館	徳川黎明会
世田谷美術館	土佐山内家宝物資料館
高井鴻山記念館	難波田龍起・史男記念美術館
高浜市やきものの里から美術館	ニューオータニ美術館*
多摩六都科学館	日本銀行金融研究所貨幣博物館
千葉市美術館	名古屋ボストン美術館*
秩父市教育委員会	箱根ガラスの森美術館
千代田区立日比谷図書文化館	嵐山記念館
土浦市立博物館	原美術館ARC
東京都江戸東京博物館	(旧原美術館/ハラミュージアムアーク)
東京都公文書館	平木浮世絵美術館
東京都現代美術館	物流博物館
東京都写真美術館	細見美術館
東京都美術館	ポーラ文化研究所
東京都埋蔵文化財センター	前田育徳会尊経閣文庫
戸田市立郷土博物館	松岡美術館
栃木県立博物館	三井記念美術館
富山県水墨美術館	三菱史料館
那珂川町馬頭重美術館	目黒雅叙園美術館*
豊田市美術館	森美術館
中野区立歴史民俗資料館	弥生美術館・竹久夢二美術館
長野県立美術館・東山魁夷館	流通経済大学三宅雪嶺記念資料館
中山道広重美術館	箱根ラリック美術館 など
新潟県立近代美術館	海外
新潟県立万代島美術館	上海博物館
練馬区立美術館	

・上記の館名等は卒業生の就職時の名称の場合があります。
・*の付く館は現在閉館しています。